

プレファーマシー実習Ⅲ	三木 知博・奥田 浩人
-------------	-------------

科目目標	卒業後、医療に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。
授業内容	現在の医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割について理解し、患者本位のファーマシューティカルケアの概念に沿った業務を行うことができるよう実践的な実習を行う。患者接遇における態度や、患者情報の把握、服薬説明上の注意点などを学ぶ。また、得た情報を適切に治療に生かすための医薬品情報の検索や、エビデンスの収集などについて実習する。
授業計画	<p>1)服薬説明の基本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の基本的権利、自己決定権などについて具体的に説明できる。 2. SP参加型ロールプレイ等により患者インタビューをシミュレートできる。(技能・態度) 3. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を挙げる。 4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度) <p>2)患者情報の活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 服薬説明に必要な患者情報を挙げる。 2. 患者背景、情報(コンプライアンス、経過など)を把握できる。 3. 医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。 <p>3)服薬説明の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な医薬品の服薬説明上の注意点を挙げる。 2. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を挙げる。 3. 代表的な医薬品について適切な服薬説明ができる。(技能) 4. 患者背景に配慮した服薬説明ができる。(技能) 5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬説明する。(技能・態度) 6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度) 7. 代表的な症例についての服薬説明内容を適切に記録できる。(技能) <p>4)実習(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベッドサイドの患者さんに適切な接遇ができる。 ○患者さんと正しいアイコンタクトができる。 ○患者さんの病状を的確に把握することができる。 ○患者さんの疾病に対して共感を持った態度ができる。 ○患者情報を参考に適切な服薬説明ができる。 ○服薬説明内容をSOAP形式で記録に残すことができる。 ○ワルファリン投与の際に実施するプロトロンビンテストを実施する。 ○採血したサンプルを基にINRを求める。 ○ピークフローレートを求める。 ○簡易キットを用いて血糖値を測定する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験期間中に試験を実施(50点) ・レポート[作品含む](50点)
教科書	別途指示
留意事項	